

事例紹介

わたしの工夫

具体的にはどのような取り組みが考えられるのか、
四人の先生方にうかがった事例をトピックごとにご紹介します。

漢字の定着のために

事例 1

横浜雙葉小学校 教諭
遠藤綾子

遠藤綾子

学校全体の取り組みです。本校では、五十年ほど前から、教科書教材とは独立した形で、当該学年の配当漢字を一日二文字ずつ学習していく活動を取り入れています。三年までは国語の毎授業、初めの十五分ほどを使い、字形・筆順・読み・意味・用例などについて確認するようにします（一年では、平仮名片仮名から学習）。黒板で、まず目を意識した確認を行い、みんなで空書きをして、字形と筆順を押さえるようにしています。

また、合わせて、その漢字を使った言葉を集めることを大切にしています。児童に

は、「言葉」として漢字に出会い、語彙を豊かにしていってもらいたいからです（詳細はP9参照）。
徐々に自主的に学習できるように意識して指導し、四年からは家庭学習に移行させていきます。家庭で、一日二文字ずつ漢字の学習をさせ、国語の授業では軽く確認する程度にします。

基本的に、教科書の漢字提出よりも早い段階で漢字を習得することになるため、「使いこなす」ための時間をより多く保証することができま。

また、三、四年の教科書での辞書の学習に合わせ、漢字学習の中でも国語辞典・漢字辞典を使わせるため、辞書を引く習慣が自然と身につきます。

学校全体での取り組みなので、学年や指導者が変わっても継続していけます。

事例 2

お茶の水女子大学附属小学校 教諭
岡田博元

岡田博元

週に一度、国語の時間を使って漢字の学習をするようにしています。教科書での提出順に合わせて学習していく順を決め、五、六字程度を取り上げた、ノートに貼れる大きさのワークシートをあらかじめ用意しておきます。週の初めに児童に配布しておき、その週の漢字の時間までに家庭で学習しておくように伝えます。

児童は、家庭学習として、自分なりに必要な情報を入れた漢字ノートで、漢字学習を進めます。週に一度の漢字の時間では、担当の児童が前に出て、その週の漢字について、読みや意味、その漢字を使った言葉や文、豆知識など、自分が学習してきたことを発表します。聞いている児童は、自分の漢字ノートにない情報を書き足します。クラスの友達の漢字ノートそのものが、児童の学習材となっています。

漢字を使った短文.....

漢字を使った言葉とその意味.....

同じ部分をもつ漢字.....

漢字についての豆知識.....

書くときの注意点.....

漢字を構成する部分とその意味.....

漢字の意味.....

漢字ノートの例。その週に学習する漢字のワークシートを貼り、次のページ以降、自分なりに学習を進めていく。

事例 3

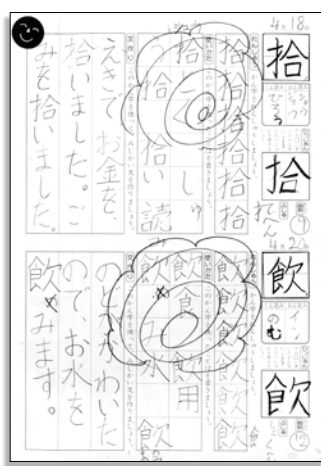
秋田市立豊岩小学校 教諭
嶋崎一枝

嶋崎一枝

日々の漢字学習に加え、校長先生が毎月の全校集会の中で出してくれる「お題」を使って、漢字を使った言葉集めに取り組ませています。

授業中、課題が早く終わったときなどに、「星」を使った言葉」などの「お題」に沿って、辞書を使いながら、児童は言葉を探していきます。見つかったら、全体で確認しつつ、その言葉を書いた短冊を掲示板に貼っていきます。

児童は競って言葉を見つけようとするので、漢字の使い方や意味が自然と身につけていきます。



現在は主に市販の漢字ドリルを使っているが、以前は、上のように漢字ノートを使って学習していた。



4年以上では、家庭で学習してきた漢字について、教師の代わりに当番の児童が説明をするクラスもある。



事例 1

横浜市立瀬ヶ崎小学校 教諭
高崎智志

児童の語彙を広げていくためには、日頃から、言葉集めの視点をもって学習に取り組むことが重要だと考えています。

そのために、漢字学習や「書くこと」の学習の中で使ったり出会ったりした言葉を記録させていくようにしています。意味や例文とともに、カードに言葉を記録し、ノートの後ろのページから貼っていくようにします。次に何か書くときには、ノートの後ろのページを振り返り、自分が前に使った言葉や知っている言葉を思い出すことができます。

それから、感想や自分の気持ちを表すときに使えるような表現を教師のほうで一覧にしておき、それをノートに貼っておくようにもさせています。教科書の付録にある、「思ったことや感じたことを表す言葉」(三年上・四年上)や「評価・判断や、感情を

表す言葉」(五年・六年)なども活用できるかもしれません。

書きたい思いはあるのに、どう表現していいか分からないから書けないという子は少なくありません。その都度、記録させたり、見せたりすることで、そのときの気持ちにぴったりの言葉を見つけられるといいなという思いがあります。

また、できるかぎり新しい言葉や表現を使うことを意識させることで、児童の語彙は格段に広がっていくことと思います。



＜作品を紹介するときに、自分の気持ちをうまく表現する言葉＞			
読んだ書との自分の気持ち	作者・著者に対して	作品に対して	他の作品と比べて
1 おどろく	かえりこぼく	明るい	新しい
2 びっくりする	感動する	温かい	真新しい
3 笑える	期待どおり	きれいな	好評
4 笑いこける	個性的	美しい	人気がある
5 気楽に読める	才能あふれる	うまい	深みがある
6 気楽に読める		ほほえましい	傑作(はっさく)
7 気晴らしになる		わかりやすい	大作
8 感動する		面白い	力作
9 感動する		笑える	注目の
10 心を動かす		笑いこける	価値ある
11 心を揺さぶる		大爆笑	高級
12 心を引きつける		爆笑	優れた
13 心を揺り動かす		おもしろい	代表作
14 うれしい気持ちになる		おもしろみがある	優秀
15 気持ちがよい		おもしろい	最高のでき
16 元気が出る		おもしろい	一級品
17 心温まる		気楽に読める	Aクラス
18 心が落ちる		気楽に読める	究極の
19 心がほぐれる		強い	
20 心が安らぐ		勢いがある	
21 心地よい		あつと言わせる	
22 心を動かす		親しみがわく	
23 快い		すてき	
24 すがすがしい		すばらしい	
25 満足する		魅力的	
26 幸福を感じる		ほれほれする	
27 快適な時間を過ごす		人気がある	
28 お気に入り		ほめる	
29 好き		役立つ	
30 好き		リッパ	
31 大好き		よい	
32 夢中になる		よい	
33 (こんな人・時に)必要		しやれた作品	
34 必読		味わいのある	
35 感動する		いきいきと書く	
36 親しみがわく		いらぬ量か	
37 味わい深い		奥深い	
38 名作		切れ味のよい	
39 魅力的		心を動かす	
40 読み通したくなる		心を揺さぶる	
41 愛読		心を揺り動かす	
42		必読	
43		おすすめ	
44			
45			

『ことばんぐ』カード		No.
【言葉】	楽観的な	ら。かんてきな
【意味】	・ものごとが、かんたんにうまくいくと思うこと ・よくよく、明るい見通しをもつこと	
【例文】	ぼくは失敗はあまりないで、 母からよく楽観的な人といわれる。	

使ったり新たに知ったりした言葉を記録するカード。なくさないよう、ノートに貼るようにしていく。

感想や気持ちを表す表現の一覧。適切なものが探しやすいよう、グループ分けするとよい。使った言葉をチェックする欄を設けてもよい。

事例 2

秋田市立豊岩小学校 教諭
嶋崎一枝

ことわざや慣用句、故事成語といった言葉や言い回しは、ふだんから意識して使うようにしていなければなかなか身につけません。児童がこういった言葉を使う場を設けるため、これらを使った文章を書くという活動を取り入れるようにしています。

具体的には、国語の授業でことわざについて学習したら、自分の好きなことわざを

使って、生活や体験についての文章を書くことを単元的に取り入れるというものです。百字程度を目安とし、長い文章は要求しません。短くてもいいので、続けることが大切だと考えます。

用紙を渡しておいて、書いたら廊下に貼っていくようにすれば、自分が書いたものがたまっていくのが目に見えるし、使えるようになった言葉が増えていくのも実感できます。学年が変わっても、同じように、その学年段階に応じて、慣用句、故事成語などに内容を変えて、活動を継続することができます。

児童には、これらの言葉や言い回しの、意味や使い方だけでなく、おもしろさも、自分の体験と重ねて感じ取ってほしいと思っています。

もちろん、これらの活動に加え、学習した言葉や言い回しを、教師が積極的に日常の授業や生活の中で使っていくことは欠かせません。教師の使う言葉が、児童が語彙を広げる刺激となるよう、日々の言葉の選び方には気を配っています。

事例 3

横浜雙葉小学校 教諭
遠藤綾子

前項でも触れましたが(P6)、本校では漢字学習を「語彙の学習」と捉えています。そのため、漢字学習と連動させた、言葉集めにも力を入れるようにしています。

家庭学習として、漢字を書く練習をするときには、その漢字を使った言葉を自分で探し、書いていくようにします。字形や筆順を確認するとともに、言葉の意味に目を向け、語彙を広げることに結び付けます。

光	い	光	ん	ぶ	元
光	け	光	学	光	し
光	い	た	光	バ	い
光	あ	く	の	ス	光
光	み	さ	が	中	や
光	よ	っ	あ	光	光
光	う	ゆ	る	え	虫

ことばあつめ 四月 九日

2年生用の言葉集めのためのワークシート。漢字の学習と連動させながら、語彙を拡充させる。

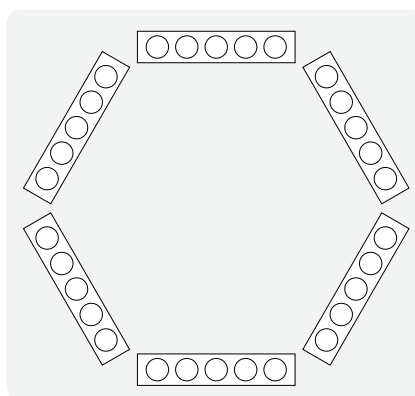
事例 1

お茶の水女子大学附属小学校 教諭
岡田博元

一年生を対象に、毎朝、朝の会の時間を使って「おはなし」という、簡単なスピーチの活動を行っています。

入学の一週間後ぐらいから始め、毎日話したいことがある子が話すというルールにしています。聞いている子どもたちには必ず質問をさせるようにします。そして、話し手の意図を引き出すようなよい質問が出たときには、教師が取り上げて褒めるようにしています。

この活動のときに工夫しているのが座り方の形態です。図のように、話し手と聞き手の位置関係が、円周上にあるような形態をとります。話し手が前に立って、聞き手は全員それに向かって座るというレクチャーのような形態だと、この時期の子どもたちはどうしても集中力がもたず、他に気が向いてしまいます。円状に座ると、お



「おはなし」の形態。ベンチに5人ずつ座り、自分の番が来たら、その場で立って話をする。

互いの顔が見えやすく、目線を交わすことができるので、「共感的に聞く」態度も育っていくように思います。

話をみんなで共有する意識が高まるため、質問についても、話し手本人が答えるだけでなく、周りにいる聞き手の子が代わりに答えたり補足してあげたりすることもあります。

慣れてきたら、話したことを取り上げ、口頭作文から作文へとつなげていく指導を展開していくのもよいと考えています。

いたいものです。

学級会では、話し合いの後、話し合いのしかたに関する振り返りの時間を設けるようにしています。自分の活動を振り返ることで、話し方の改善や次の活用に結び付けます。

また、シートには、友達と話し合いの中で使っていた話し方・質問のしかたで、「いいな」と思ったものを書き留めておけるようにもしています。よりいっそう、友達の話を注意深く聞く姿が見られるようになりました。

一年間かけて、あらゆる機会を無駄にせず、児童の話し合いの力を定着させていければと思っています。



事例 2

横浜市立瀬ヶ崎小学校 教諭
高崎智志

国語で学習したことを定着させる意味で行っていることがあります。例えば、教科書四年上「よりよい学級会をしよう」で学んだ「話し合いのしかた」についてご紹介しましょう。

ここで学んだ話し合いのしかたがしっかりと身につくように、その後の学校生活の中での学級会でも積極的に活用していくよう意識づける必要があります。日々の学級会、各学級の代表者が集まる「代表委員会」で話し合うときには、学習したことを思い出させるために、教科書の学習の手引きにある「たいせつ」コーナーの内容をより具体的にしたワークシートを作り、児童に持たせるようにします。

シートには、話したり質問したりするときの、具体的な話型の例を載せておくようにします。発言するときには、これを見て、話し方を確かめながら話すことができます。自分が学習の中で得た言葉なのだから、いつでも取り出して使えるようになってもら

バファル四年生「話し合い名人の道」

話し合いのアイテム		話し合いのアイテム	
話し手	聞き手	話し手	聞き手
話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。	話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。
話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。	話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。

友だちのアイテムをゲットしよう

話し手	聞き手	話し手	聞き手
話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。	話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。
話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。	話し手は、自分の話を話すとき、自分の話を話す前に、相手の話をよく聞く。	聞き手は、話し手が話しているとき、相手の話をよく聞く。

話し合いのときに使える話型をまとめたワークシート。横に、友達の話し方を書き留める欄を設けておくとうい。



実際の教室の様子。教室前方を広く空け、ベンチを並べる。

